



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(222) 7207 番

96.9.18 No. 4467

# 高崎で有名な 青年労働者が決起！ 内部からほころび はじめたJR総連

# 今こそJR総連、革マルに打倒！総決起を

## 正義感に燃え 三名の青年が 決起！



この間、何号かにわたって日刊で報じてきましたが、八月一日、JR東労組の高崎車掌区分会において、三名の青年労働者(一九才、二〇才、二一才)が自主的にJR東労組を脱退し、国労に加入するということがありました。

この三名は、ほんの数年前にJRに就職し、会社と東労組の癒着体制の中で、なにもわからず、入社と同時にJR東労組に加入した、他の新採とかわらぬ青年たちです。

就職してからの数年間、彼らの体験してきたことは、「国労と口をきくな」「国労は人間じゃない」「国労に入ったら転勤だ」「一生涯別されてそれでいいの」などという組合員に対する締め付けや引き回し、会社と革マルの結託した職場支配、労務政策だったわけです。

このようなことが彼らの義憤をひきおこし、正義感からJR東労組を脱退し国労に加入したということでした。

今回の高崎での出来事は、水山に一角であり、どこでもおきるという事です。分割・民営化以降のJR総連・革マル支配の下で、労働者としての諸権利が奪われ、あらゆる合理化が強行され、人間としての尊厳も踏みにじられてきた中で、内部から怒りの声が満ち溢れているのです。そこに見えるのは、崩壊の危機にたつJR総連・革マルの姿です。

## 正体ありわす 東労組革マル

三名の国労加入に対してJR東労組は、本部組織部長小林が高崎車掌区に乗り込み、「新潟での千名(鉄労系のグリーンユニオンへの脱退)の比ではない」として、高崎支社当局と結託して職場を占拠し、連日大量の動員者で駅や乗務中の列車など三名の行路につきまとい、「お前らは、一週間以内に会社を飛ばす」「一生を台無しにするんだぜ」(JR東労組役員・革マルの発言。これが二〇才も三〇才も年下の人に対する言葉でしょう。しかも集団で!)と、威圧と暴言を繰り返したのです。ついに、数を頼りに当局と

つるんで国労組合員との接触を妨害し、JR東労組高崎地本の事務所拉到致・監禁し国労脱退を強要したというのです。

JR総連の組合員に対する暴力支配、一方では会社と癒着した他労組の組合員に対する徹底した差別的攻撃。ファシスト労働組合の正体むきだしです。

しかし、国労高崎のパンフには、「現時点では、三名の若い仲間、東労組に再加入という情況にあります。心は完全に国労組合員としての誇りを持ちつづけています。彼らが身を挺して示した勇気ある行動により、JR会社と東労組との常軌を逸した癒着構造が満天下に明らかとなり、改めて多くの組合員が「このままじゃだめだ。こんな無法を絶対許すな」という決意を新たにしています。組織拡大闘争はいよいよこれからが正念場であり、と記しています。

## 勇気をきいて 起ちあがろう

JR東労組は、この秋の運動方針を「国労の変質を許さない闘い」「国労の最後の解体」一本に絞り込んでいます。

高崎のように、JR総連・革

次回  
定期大会の成功が  
ちろう!! 9.29-30  
(日・月)

マル支配のタガがゆるんでいるだから国労をつぶすということ。このことは逆に言えば、全ての職場から、JR総連解体の闘いに総決起すれば、確実にJR体制をつき崩すことができ、絶好のチャンス到来ということ。とです。

正念場の国鉄闘争勝利に向けJR総連-JR体制との組織攻防戦に総決起しよう!

JR東労組の組合員の皆さん! 勇気をもって革マル支配と訣別し、労働者らしさ、人間らしさを取り戻そう!

そのためには、団結が必要です。たたかう労働千葉に結集しよう!